

【協会けんぽ・生活習慣病予防健診の検査項目】

			一般 健診	※付加 健診	検査の目的や内容など
診 察 等	問診		○	○	自覚症状・家族歴・既往歴・服薬治療中の病気・喫煙の有無など質問をします。
	計 測	身長・体重	○	○	体重が昨年と比べて変化したかに注目しましょう。急な増減は要注意です。
		B M I	○	○	肥満もしくはやせすぎかどうかわかります。
		腹囲	○	○	内臓脂肪の蓄積の程度わかります。
		視力	○	○	近視かどうか等わかります。
		聴力（1000Hz・4000Hz）	○	○	難聴の有無や程度わかります。
	最高血圧（収縮期）		○	○	循環器（心臓・血管）の異常のほか腎臓・内分泌・代謝系の異常を知る手がかりになります。
	最低血圧（拡張期）				
脂 質	総コレステロール		○	○	高値は動脈硬化を起こす原因になります。
	空腹時中性脂肪		○	○	高値は動脈硬化を進めることにつながります。
	H D L コレステロール		○	○	低値は動脈硬化を進めることにつながります。
	L D L コレステロール （non-H D L コレステロール）		○	○	高値のまま放置すると、動脈硬化が進み、脳梗塞や心臓病の原因になります。
肝 機 能	A S T（G O T）		○	○	高値は肝炎などの肝機能障害や心筋梗塞、筋疾患などの疑いがあります。
	A L T（G P T）		○	○	
	γ-G T（γ-G T P）		○	○	高値は飲酒による肝障害または胆道系の病変の疑いがあります。
	A L P		○	○	高値は胆汁の排泄に障害がある疑いがあります。
	総蛋白			○	栄養状態や肝機能、腎機能の指標になります。
	アルブミン			○	低値は高度の肝機能障害、消化吸収障害、腎疾患の疑いがあります。
	総ビリルビン			○	高値は肝機能障害などによる黄疸が考えられます。
	アミラーゼ			○	膵臓などの病変がわかります。
代 謝 系	L D H			○	高値は肝臓、腎臓、心筋、骨格筋、脳などの病変の疑いがあります。
	空腹時血糖		○	○	高値は糖尿病の疑いがあります。食事の影響が強いため空腹時に検査します。
	尿糖（半定量）		○	○	尿中の等の有無を調べます。血糖値が高い時に増えることがあります。
血 液 一 般	尿酸		○	○	高くなると通風、尿管結石の原因になります。
	ヘマトクリット		○	○	低値は貧血の疑い、高値は肥満や脱水の可能性があります。
	血色素量		○	○	低値は鉄欠乏性貧血の疑いがあります。
	赤血球数		○	○	高値は多血症、低値は貧血の疑いがあります。
	白血球数		○	○	高値は感染症の疑い、非常に高値・低値は血液の病気の疑いがあります。
	血小板数			○	低値は出血が止まりにくい症状が出る可能性があります。
尿 ・ 腎 機 能	末梢血液像			○	白血病、急性感染症やアレルギー疾患などがわかります。
	尿蛋白（半定量）		○	○	(+)以上は慢性腎臓病、ネフローゼ症候群、尿路感染症などが考えられます。
	尿潜血		○	○	(+)以上は腎臓、尿管、膀胱などの出血が考えられます。
	血清クレアチニン		○	○	高値は腎機能障害、前立腺肥大の疑いがあります。
	e G F R		○	○	低値は腎機能障害の疑いがあります。
そ の 他	尿沈渣			○	異常所見は尿路の出血、炎症などの疑いがあります。
	胸部レントゲン		○	○	肺の病気の有無・心臓の大きさ・大血管の大きさを調べます。
	心電図		○	○	心臓の状態をチェックし不整脈・狭心症・心筋梗塞等がないかを調べます。
	胃部レントゲン・内視鏡検査		○	○	食道・胃・十二指腸の異常がないかを調べます。
	便潜血反応検査（2日法）		○	○	便中の血液の有無を調べ、消化管出血の有無を調べます。
	眼底検査		■	○	目の病気のほか、高血圧、動脈硬化、糖尿病による病変がないかを調べます。
	肺機能検査			○	慢性閉塞性肺疾患、肺気腫、気管支喘息などの有無や肺の換気機能を調べます。
腹部超音波検査				○	肝臓、胆嚢、腎臓の異常の有無や、胆石、肝硬変、腎結石などがわかります。
自己負担額			5,282円	7,971円	

※付加健診は受診年度において40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の方が受診できます。

※■の眼底検査は医師の判断により実施される詳細な健診項目です。

マンモグラフィ1方向（50から74歳の偶数年齢）	1,013円
マンモグラフィ2方向（40から48歳の偶数年齢）	1,574円
子宮頸部細胞診検査（36から74歳の偶数年齢）	970円
H C V抗体検査、H B s抗原検査（血液検査）	582円